

〔鉢物向け八重系ブバルディアの選抜と周年栽培技術の開発〕
鉢物ブバルディアの周年出荷を可能とする栽培技術の開発
～異なる用土および鉢サイズ、定植本数が生育に及ぼす影響の評価～
大槻優華・山口拓斗
(園芸技術科)

【要 約】ブバルディア鉢物生産の用土は、パーライトの混合割合が体積比 0.5～2 割で生育と作業性がよい。仕立て方は、鉢サイズ 3, 4, 5 号, 苗本数は 1～3 本の範囲で鉢サイズや生育は概ね同様で生産可能であるが、苗本数 3 本で外観が優れる。

【目 的】

鉢物ブバルディアの周年出荷を可能とする栽培技術の開発に向け、栽培に適した用土の検討と仕立て方（鉢サイズおよび定植苗本数）が生育に与える影響を評価し、生産の資料とする。

【方 法】

試験 1 用土の検討:「東京スター クリアピンク（以下、クリアピンク）」を供試した。試験区は表 1 に示した用土の配合割合が異なる 4 種類の用土を用い、各区 5 株を供試した。購入したプラグ苗を 2025 年 1 月 27 日に 9 cm 黒ポリポットに設定の用土で鉢上げした。4 月 16 日に同じ用土を用いて 5 号白プラ鉢に鉢上げを行い、慣行で栽培した。生育に応じて適宜 1～2 節で切戻しを行い、12 月 5 日に生育を調査した。

試験 2 仕立方法の検討:「東京ダブルスター 恋桜（以下、恋桜）、サニーレッド（以下、サニーレッド）、スノーピンク（以下、スノーピンク）」を供試した。試験区は鉢のサイズ（3 号, 4 号, 5 号）および 1 鉢当たりの定植苗本数（1, 3 本）の組合せの計 6 区とし、各区 1 品種 5 株を供試した。購入したプラグ苗を 2025 年 6 月 12 日に鉢上げした。用土は標準用土（赤土：腐葉土：ピートモス＝5：4：1）：パーライト（中粒）：赤玉土（中粒）＝4：3：3 を用いた。7 月以降、生育状況に応じて適宜摘芯を行った。9 月 12 日から 2 週間シェード処理を行った（16 時～翌 8 時、8 時間日長）。12 月 9 日に生育を調査した。

【成果の概要】

1. 用土：生育は、用土③の株張が有意に小さくなったが、それ以外の項目で有意差はなく、いずれの用土でも概ね生育に差はないと考えられた（表 1）。また苔の発生程度に区間で差はみられなかった（データ略）。用土④は栽培中にパーライトが比重の差によって徐々に鉢表面に浮き上がり、株のぐらつきや周囲への飛散が目立ったことから、作業性も加味して用土は①～③が適していると考えられた。
2. 仕立：いずれも生育は良好で欠株や著しい生育不良はなかった（データ略）。生育は要因ごとの影響が品種ごとに異なり、恋桜は苗本数が多く、鉢サイズが小さいほど最大側枝長が有意に短くなった（表 2）。品種、区において実際の生育の差は小さく、いずれの条件でも生産は可能であることが示されたが、1 本植え区は全体的に地際の空白がめだつたことから、いずれの鉢サイズでも 3 本植えがより外観が優れると考えられた（図 1）。

【残された課題・成果の活用・留意点】

「東京スター、東京ダブルスター」シリーズの苗単価は、1 本あたり約 148 円である。

表1 用土の組成が生育に与える影響

試験区	用土組成 (体積比) ^a			株高 (cm)	株張 (cm)	SPAD	新鮮重 (g)	
	標準用土	赤玉土	パーライト				地上部	地下部
①	6.5	3	0.5	45.1	32.3 a	40.5	23.9	7.4
②	6	3	1	47.9	31.5 a	40.4	25.9	6.3
③	5	3	2	50.5 ^{ns}	19.3 b	41.8 ^{ns}	61.9 ^{ns}	4.3 ^{ns}
④ (標準)	4	3	3	48.3	27.2 a	36.4	25.1	6.8

脚注) 表中の異なる英文字間はTukey法により5%水準で有意差あり a) 標準用土は赤土:腐葉土:牛糞堆肥=5:4:1(体積比)の混合用土。赤玉土は中粒(6~12mm径),パーライトはMサイズ(6~7mm径)を使用した。基肥および追肥は慣行に基づき全区同日,同量で行った

表2 鉢サイズおよび苗本数が生育に与える影響

品種	鉢サイズ (号)	苗本数	株高 (cm)	株張 (cm)	最大側枝長 (cm)	最大節間長 (cm)	最大節数	
恋桜	5	3	23.6	39.0	20.2	7.0	3.8	
		1	27.8	32.8	33.7	9.0	5.4	
	4	3	26.0	31.1	21.4	7.4	3.7	
		1	25.2	29.3	22.5	7.4	3.9	
	3	3	23.2	28.2	17.6	7.4	3.4	
		1	24.2	30.1	22.5	8.4	4.2	
	分散分析 ^a							
	鉢サイズ			NS	NS	**	NS	**
苗本数			NS	*	**	*	**	
鉢サイズ×苗本数			NS	NS	**	NS	*	
サニーレッド	5	3	34.6	42.3	27.5	5.8	5.5	
		1	36.6	44.7	32.2	5.4	6.4	
	4	3	31.9	39.9	23.4	5.2	5.0	
		1	33.6	39.5	27.4	5.0	5.5	
	3	3	29.2	37.6	23.1	3.8	5.2	
		1	35.1	40.0	26.4	5.0	5.2	
	分散分析							
	鉢サイズ			NS	NS	*	*	NS
苗本数			*	NS	*	NS	NS	
鉢サイズ×苗本数			NS	NS	NS	NS	NS	
スノーピンク	5	3	21.4	35.1	20.5	5.4	4.0	
		1	21.5	32.6	27.3	6.6	4.8	
	4	3	21.8	30.4	19.6	5.6	3.5	
		1	23.1	34.8	24.0	6.6	4.4	
	3	3	19.9	33.6	18.4	5.2	3.8	
		1	17.4	23.3	17.2	6.0	3.6	
	分散分析							
	鉢サイズ			NS	*	**	NS	*
苗本数			NS	**	*	*	*	
鉢サイズ×苗本数			NS	NS	NS	NS	NS	

a) 鉢サイズと苗本数で二元配置の分散分析を行った。NS:有意差無し, *: p<0.05, **: p<0.01



恋桜



サニーレッド



スノーピンク

図1 仕立鉢の外観
いずれも4号鉢3本植え